

YCU 夏季短期語学研修 派遣学生報告書

氏 名	H.N	学部・学科	国際教養学部国際教養学科
学 年	2 年	派遣国	アメリカ合衆国
派遣大学	サンディエゴ州立大学		
プログラム名	Intensive English for Communication		
期 間	2025 年 8 月 13 日～ 2025 年 9 月 13 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

私が参加したクラスは、サウジアラビア、ロシア、中国、韓国、フランス、トルコなど多様な国からの学生に加え、半数以上を日本人が占めていた。授業は曜日ごとに異なり、月曜日と水曜日はアメリカの文化やボキャブラリー、リスニング、スピーキングを中心に学び、火曜日と木曜日は英語でのコミュニケーションや文法を学習した。金曜日は英語を応用したレクリエーション的な授業であり、中でも班ごとにカップケーキを作った活動は特に印象に残っている。

カルチャーとボキャブラリーの授業ではグループワークが多く、日本ではなかなか交流できない国々の学生と関わる貴重な機会となった。授業のテーマは回ごとに変わり、アメリカの食文化や歴史上の人物についての文章を読み、語彙や内容理解を深めた。その後グループで答えを確認し合う過程では、自分の考えを瞬時に英語に変換できないもどかしさも感じた。相手の文化背景を踏まえて話す必要性も実感し、語学力だけでなくコミュニケーション力全般を養うことができた。

コミュニケーションの授業では、キャンパス内を散策して「リラックスできる場所」を見つけて発表する活動や、好きな映画を紹介する発表などが行われた。発表中心の授業であったため、日本での APE の授業で培った英語によるプレゼンテーションの経験が役立ったと感じた。人前で英語を話すことへの抵抗が薄れ、自分の意見を堂々と伝える姿勢が身に着いたように思う。

一方で、グラマーの授業では現在形と現在進行形、過去形と過去進行形の違いといった基礎的な内容を扱ったため、もう少し難易度の高い内容でも良かったと感じている。しかし、基礎を固める良い機会でもあった。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

国や年齢を問わず多様な学生とディスカッションを行う中で、これまでの自分にはなかった新しい視点を獲得することができた。同時に、自分の積極性のなさにも気づかされた。授業全体を通して、私はあるトルコからの学生と同じグループになることが多かったが、先生の質問に対する彼の意見は常に斬新で、そのような捉え方もあるのだと驚かされる場面が多くあった。彼の発言は私にとって刺激となり、自分の考えを柔軟に広げるきっかけになった。一方で、意見を自由に述べる場面になると、日本人学生は全体的に発言が少なく、私自身もなかなか積極的に話せなかった。日本以外の学生が即座に自分の考えを英語で表現しているのを見て、語学力の差だけでなく、日本人特有のシャイな一面がそのまま出ているように感じた。頭の中では伝えたいことがあっても、それを英語にして表現するまでに時間がかかり、発言の機会を逃してしまうことも多かった。この経験を通じて、語学力の向上はもちろんのこと、勇気を持って自分の意見を発信する積極性が必要であると痛感した。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、自分の伝えたいことが曖昧なまま英語で発表することに不安を感じ、PE や APE の授業でも誰かの意見を待って賛同することが多かった。しかし今回の留学で多くの国の学生と交流し、彼らが積極的に発言する姿を見て、自分も恐れずに話してみようと思えるようになった。正確な英語でなくても、ニュアンスや身振り手振りで意思疎通が可能であると実感できたのは大きな収穫である。また、クラスの構成上日本人が多かったためつい日本語を使ってしまう環境ではあったが、英語力を伸ばすには自ら日本人以外の学生に話しかける必要があると強く感じた。その点でも、以前より積極的に行動できるようになったことは自分にとって大きな成長である。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学を通して、英語力だけでなく人や物に対する積極性を身につけることができた。SDSU で学んだ他者との関わり方や、アメリカで気づいた自分の消極性を積極性へと変える努力を続け、今後は横浜市立大学に在学中の留学生とも積極的に交流していきたい。また、自分の英語力の不足を改めて実感したため、日頃から英語に耳を慣らし、ホームステイという日常英語を学ぶのに最適な環境で得た経験を無駄にすることなく、日本においても英語学習への意欲を忘れずに取り組んでいきたい。

YCU 夏季短期語学研修 派遣学生報告書

氏 名	M.S	学部・学科	データサイエンス学部 データサイエンス学科
学 年	2 年	派遣国	アメリカ合衆国
派遣大学	サンディエゴ州立大学		
プログラム名	Intensive English for Communication		
期 間	2025 年 8 月 13 日～ 2025 年 9 月 13 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

月曜と水曜に「アメリカ文化」と「スピーキング・リスニング」、火曜と木曜に「プレゼンテーション」と「文法」の授業が行われ、それぞれ事前のテストの結果によってクラスが分けられた。金曜日には英語を使った体験型の授業を受けた。授業は全て午前中で、月曜から木曜の 14 時半からは宿題のサポートや先生との交流ができる自主参加クラスも用意された。

まず「アメリカの文化」の授業では、アメリカ人の価値観についての短い動画を見てクラスメイトと内容の確認をしたり、自分の意見を述べたりした。アメリカ社会を構成する価値観をテーマにした教科書を読み内容理解や重要語句の意味の確認、単語のアクセントに注意して録音を提出する宿題がでた。

「スピーキング・リスニング」では映画「Trap」を教材に、単語の意味理解や、登場人物の心理を考察した。2 度のテストでは単語の定義や登場人物の行動理由を問う問題が出題され、聞く力と表現力が試された。

「プレゼンテーション」では初回の授業からペアの他己紹介を行い、以後も毎回、週末の過ごし方やサンディエゴの魅力などを聞き取りクラス全体に伝える活動を続けた。また、4・5 人のグループで「サンディエゴの魅力」についてのプレゼンテーションを行った。その準備段階では、自分のグループの概要をまとめ他のグループの人に説明しプレゼンテーションにあたってのアドバイスを求めたことが印象的だった。

「文法」では時制、動名詞と不定詞、使役動詞について「Focus on Grammar 4」という教材を用いて学んだ。週 1 回の課題は教科書の穴埋め問題がほとんどで授業内容の復習問題だった。毎回の授業でその日の内容の理解度を確認する小テストが実施された。

金曜日の体験型の授業では、グループで英語を使いながらスライム作りやカップケーキ作りなどを行い実生活の中での英語を学ぶことができた。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

授業を通して学びは、英単語を日本語訳に頼らず理解する重要性を実感したことである。ある先生から「翻訳を使うとその場では分かった気になっても、後で思い出すときに苦労する」と教えられ、実際に英語の定義で意味を捉えようとした。定義に出てくる単語自体が分からず戸惑うこともあったが、それこそが語彙を広げる良い機会だと考え直すようになった。文法学習においても、例文だけでなく「どのような条件や場面でその文法が使われるか」を英語で理解することを心がけた。英語のまま説明を聞き、自分の言葉でまとめ直すことで応用力が身についた。リスニングでは、すべての単語を正確に聞き取ろうとする姿勢を改め、まずは全体の音の流れを把握し、次に文法的な知識を手がかりに意味を補う方法を身につけた。さらに、自分の発音の弱点にも気づかされた。特に"r"と"l"、"th"の音は舌の位置が不十分で相手に伝わらないことがあり、自分自身も違いを聞き取れない原因となっていた。授業を通して舌の使い方を意識的に練習し、発音の改善に取り組むきっかけとなった。これらの経験を通じ、単に語彙や文法の知識を増やすだけでなく、「どのように学ぶか」という勉強法そのものを学べたことが最大の成果だと考える。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、英語を話す際に文法の誤りを恐れ、言葉が出にくくなるが多かった。しかし授業ではコミュニケーションの時間が豊富で、間違えても相手に意図が伝わる経験を重ねたことで、まずは話してみようと勇気が出るようになった。実際に会話をする中で、自分で違和感を覚えた表現は後で調べ、正しい言い方を学んで次に生かすという流れを繰り返すようになった。また、授業中にその場で質問する海外の学生の姿勢に刺激を受け、疑問に思ったことはすぐに聞くことが大切だと学んだ。以前は自分で調べればよいと考えていたが、授業内で解決することで他の学生の理解も深まると気づき、質問への抵抗がなくなった。加えて、当初は1か月英語に浸れば上達すると漠然と考えていたが、実際には日々の積み重ねこそが力になると実感した。特に"r"や"th"の発音に苦戦し、先生に質問してコツを教わって少しずつ改善していったが、さらに練習が必要だと思った。

(4) 今後はどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

授業内外で英語を実際に使える環境が非常に貴重だったと感じたため、今後も自分から話す機会を積極的に作っていききたい。対話の中でしか得られない表現や気づきが多かったことから、大学の海外教員と交流できるプログラムの参加や、留学生サポートなどを探して取り組みたいと強く思った。また、この1か月で身につけた学習法を継続することも大切にしたい。特に英単語を英語で理解する方法は、語彙力の定着だけでなく読解力や表現力の向上にも役立つためこれからも行っていききたい。さらに、授業で質問があれば素直に聞く姿勢を維持して英語だけでなく大学の専門科目にも活かして学んでいきたい。

YCU 夏季短期語学研修 派遣学生報告書

氏 名	K.Y	学部・学科	国際教養学部国際教養学科
学 年	2 年	派遣国	アメリカ
派遣大学	サンディエゴ州立大学		
プログラム名	Intensive English for Communication		
期 間	2025 年 8 月 13 日～ 2025 年 9 月 13 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

月曜日と水曜日の 1 時間目は、アメリカの文化・語彙・発音を学ぶ授業で、アメリカの歴史や文化を説明した長文を読みながら、アメリカ独自の価値観を学んだ。特に、提案されたテーマから自分の好きなものを選び、プレゼンテーションを行ったのが印象的だった。私は、アメリカの価値観と日本の価値観の比較のプレゼンをした。この授業では、毎回幾つかの課題がオンライン上で出された。それらの課題は、長文を読んで問いに答えるものや自分の発音を録音するものなどがあった。特に、クラスメイトの意見にコメントする課題が印象的だった。2 時間目は、リスニング&スピーキングの授業で、プレゼンをしたり、リスニング能力を上げるための方法を学んだりした。特に印象的だったのが、初回の授業だった。初回では、自分の専攻を選んだ理由や専攻のテーマと現代社会の関わり方などのプレゼンを約 15 分で準備して、5 分程度のプレゼンテーションを行った。短時間でプレゼンの準備をしたのは初めてだったので、印象的だった。さらに、TED を見て、内容を要約する授業もあり、とても難しかった。英語字幕なしで内容を理解して、重要な点を自分なりにまとめる必要があった。この授業は、実践的な内容だったので非常に難しかったが、勉強になった。火曜日と木曜日の 1 時間目は、スピーキング&プレゼンテーションの授業で、グループに分かれてプレゼンテーションを行った。サンディエゴについてのプレゼンだったので、サンディエゴの文化などをより詳しく知ることができた。2 時間目は、グラマーの授業で、不定詞・動名詞などを学んだ。文法や規則を英語で学ぶので一つ一つ理解することは非常に難しかったが、チームに分かれてクイズをしたり、ゲームをしたりして楽しく学ぶことができた。金曜日の授業は、グループに分かれてバターやカップケーキを作る授業で非常に楽しかった。また、月曜日から木曜日の 4 時間目は出席自由な optional の授業で、先生が課題を教えたり、先生と少人数で英語の会話の練習をしたりした。授業で分からなかった所を質問できたり、会話のアドバイスをもらえたりしたので、とても勉強になった。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

アメリカの文化を学ぶ授業では、アメリカの人々が大切にしている価値観を学び、日本とは少し異なっている所や似ている所を学ぶことができた。それぞれの国によって、重要視している価値観は異なっているということを改めて理解でき、多文化共生の大切さを実感した。アメリカ独自の価値観は、移民や社会階級などの歴史が大きく関わっていることが分かった。しかし、この価値観も現在は変化していたり、重要なものが変わってきたりしていることを学び、既存の価値観から発展した価値観に変わっていくことを知ることができた。グラマーの授業では、中学生や高校生の時に勉強した文法や動詞の規則をもう一度学び、なぜそのような規則になるのかや文法の詳しい内容まで分かり、改めて文法の詳しい点まで理解できたと思う。スピーキング&プレゼンテーションの授業では、サンディエゴにちなんだプレゼンテーションを行った。そのため、準備する際にサンディエゴの観光地や文化、歴史などをインターネットで調べて、改めてアメリカだけではなく、サンディエゴについて詳しく学ぶことができたと感じる。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、先生の英語がしっかりと理解できるのか不安だった。しかし、授業を受けてみると、先生は分かりやすく丁寧に指示を出していたので非常に理解しやすかった。同じクラスには、他国からの留学生が多くいた。彼らの英語の発音は訛りがあったり、文法が間違っていたりしていたが、たくさん発言したり先生とコミュニケーションを取ったりしていて、失敗を恐れずに会話をするのが大切だと学ぶことができた。また、短い準備期間でプレゼンテーションを行うことが何度もあり、スクリプトなしで、その場で考えながら英語を話すことが必要だということを実感した。また、授業を受ける前は、プレゼンは話す人が聴衆に対して説明したり、意見を伝えたりするものだと考えていた。しかし、プレゼンの際にアイコンタクトを行ったり、聴衆に質問したりすることが必須だと授業中に指示され、プレゼンには双方向のコミュニケーションが重要なのだということが分かった。

(4) 今後はどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の1ヶ月の短期留学で、英語を話す機会が増え、現地の友達や先生と話す際に、自分の英語力の不十分さを実感した。そのため、今よりも英語を流暢に話せるようになりたいと強く思うようになった。そこで、PE センターのコミュニケーションアワーに行ったり、英語で行う授業を選択したりして、英語を日常生活に取り入れていきたい。また、自分でも英語の YouTube を見たり、英語で日記を書いたりして、インプットだけではなく、アウトプットも同時に行っていきたい。また、ホストマザーや現地の友達とも連絡を取り続けて、流暢な英語を話せるようになったら、また会いに行きたいと思う。